



IK INABATA

企業概要



社是

愛 敬

Mission

経営理念

「愛」「敬」の精神に基づき、人を尊重し、社会の発展に貢献する

Vision

目指す姿

時代とともに変化する顧客と社会のニーズに応え、
グローバルに事業を展開することにより、価値ある存在として常に進化を続ける

IK Values

価値観

- 謙虚さと誠実さを基本とする(倫理観)
- 高い理想、大きな夢、熱い心を持って常に限界に挑戦する(志)
- 自由闊達な議論とチームワークを重んじ、社員の成長を大切にする(組織風土)
- 顧客の問題を顧客の立場から解決し、顧客のベストパートナーとなる(機能)
- 世界の人々と価値を共有し、そこに暮らす人々と共に発展する(共生)

トップメッセージ

商社ならではの複合機能の高度化を図り、時代が必要とする価値を創造します。

1890年、京都の地で合成染料の輸入販売から創業した当社は、ケミカル事業を中心に事業を拡大してきました。現在は海外17カ国、約60拠点のネットワークを構築し、連結売上高に占める海外事業の割合が5割を超える企業グループとなりました。

今後一層加速するであろうビジネスのグローバル化や市場ニーズの変化に対応し、当社の持続的成長を実現するため、将来のありたい姿を想定した長期ビジョンを策定しました。

長期ビジョン IK Vision 2030 2030年頃の当社グループのありたい姿

機能

商社機能を基本としつつも、製造・物流・ファイナンス等の複合的な機能の一層の高度化を図る

規模感

連結売上高1兆円以上を早期に実現

海外比率

70%以上

ポートフォリオ

情報電子・合成樹脂以外の事業の比率を1/3以上に

創業以来130年にわたり培ってきた販売・製造・物流・ファイナンスといった様々な機能を、国内外の拠点を結ぶ緊密な情報ネットワークと組み合わせ、より高度なソリューションを提供することにより、これからも時代が必要とする価値を創造し続けます。

また、長期ビジョン実現のファーストステップとして、中期経営計画 New Challenge 2020 を推進しています。長期ビジョンを見据え、中期経営計画の達成を目指して、社会や顧客から必要とされる企業として進化を続けていきます。

中期経営計画 New Challenge 2020 重点施策

1. 海外事業のさらなる拡大と深化
2. 成長が見込める市場・未開拓分野への注力
3. グローバルな経営情報インフラの高度化
4. 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化
5. 保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化
6. グローバル人財マネジメントの確立

皆様には、これまでと変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

稲畑勝彦



価値創造プロセス

「人財力」×「情報力」を核にトレーディングを極め、
商社の複合機能を駆使しながら
新たな価値を創造します。

経営理念の



財務
資本

自己資本比率
45%
強固な財務基盤



人的
資本

連結従業員数
4,282人
商社拠点の
ナショナルスタッフ:783人



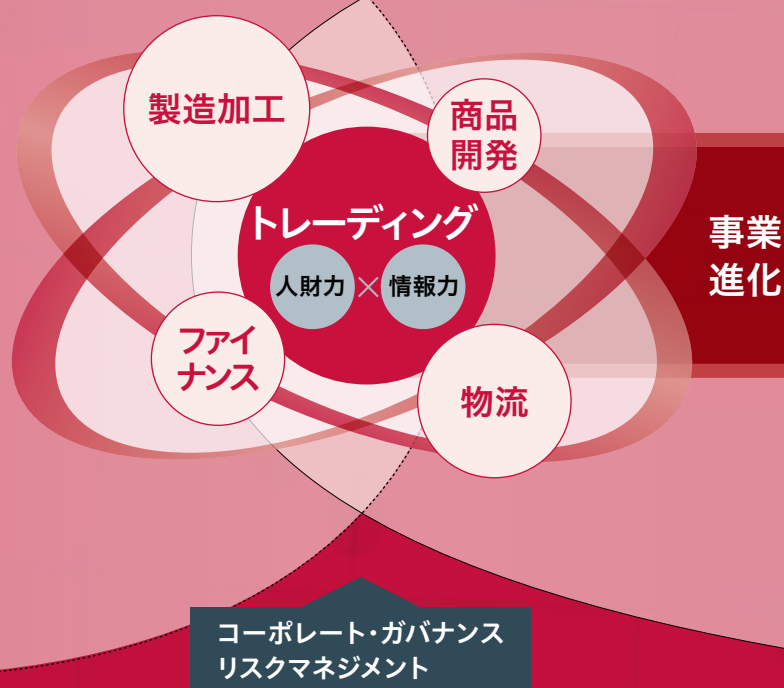
顧客
基盤

仕入先・販売先
約**10,000社**
130年培った信頼



社会・
関係
資本

海外展開
17カ国、約60拠点



※2020年3月31日時点

稲畑産業が駆使する各種機能



製造加工

当社は、グループとして世界に製造加工子会社を22社^{※1}保有しており、現在、約560億円の売り上げがあります^{※2}。当社の根本は商社であり、そのビジネスの基本はトレーディングですが、「製造加工」機能はトレーディングを補完するツールと位置づけています。当社の主要な「製造加工」機能として、合成樹脂事業におけるコンパウンド製造事業があります。
(→樹脂コンパウンドの年間生産能力図 P24)

※1 2020年3月末の製造加工業の連結子会社数

※2 2020年3月期の単純合算値

顧客のグローバル化が進むなか、現地のニーズに応えるさまざまな原材料を供給し、専門性を伴うサービスを提供できるのが当社の強みです。当社の価値創造の源泉は、世界17カ国、約60拠点で働く約4,200人の「人財」と、日々の営業活動から収集される「情報」です。ケミカルをはじめとする高い専門性を有するグローバル人財が、より高度な「情報」を「製造加工」「物流」「ファイナンス」「商品開発」などの各機能と組み合わせ、情報電子・化学品・生活産業・合成樹脂の分野において、世界各地で顧客の課題解決や新たなビジネスの創出につなげています。

実践へ向けて

事業セグメント



情報電子



化学品



生活産業



合成樹脂

注力分野・市場



自動車分野



環境・
エネルギー
分野



ライフ
サイエンス・
医療分野



農業を含む
食品分野

中期経営計画
New Challenge
2020
(略称:NC2020)

長期ビジョン
IK Vision
2030

お客様



ニーズを満たす
付加価値の提供と
安定供給による、
顧客への貢献

社員



グローバルに
活躍できる
働きがいのある
職場環境の実現

株主



安定的な利益還元
(総還元性向
30~35%)

社会



ビジネスによる
経済価値創出で
地域社会発展への
貢献



物流

化学品の取り扱いなど、グループ内で長年蓄積してきた商品知識やノウハウに基づき、信頼のおける倉庫会社・運送会社をパートナーとして最適な物流機能を顧客に提案・提供しています。世界各地でビジネスを展開する顧客には、当社のネットワークとノウハウを生かしたVMI[※](vender managed inventory)を提供しています。さらに、インドネシアでは顧客が求めるタイムリーなデリバリーとワンストップサービスを実現するため、自動車部品や樹脂原材料を扱う自社物流センターを設立しました。

※当社が顧客に代わって在庫を管理・補給するシステム。ITを使って顧客の生産情報を分析し、多数の仕入先や物流業者を調整することで、顧客に対して効率的に原料や資材を納入する。



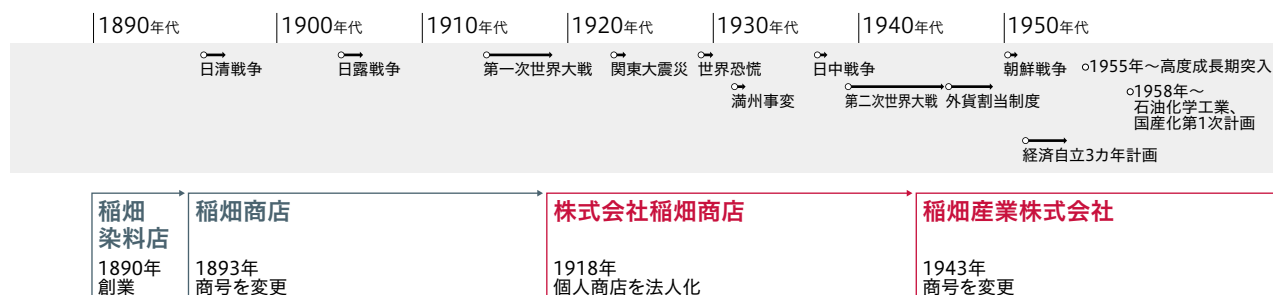
ファイナンス

顧客の資金負担軽減や為替リスク回避などの課題に対する解決策を提案・実行しています。顧客が期待するファイナンス機能を提供するには、強固な財務基盤が必要です。当社は、ネットD/Eレシオ[※]を重要な経営指標と位置づけ、常に財務の健全性向上に努めています。また、NC2020では同指標の目標値を0.4倍以下に設定しています。2020年3月末時点の同指標の実績は、0.16倍となり、財務の健全性が十分保たれています。

※ネット D/E レシオ = (有利子負債 - 現預金) ÷ 自己資本

ケミカルビジネス進化の歴史と組織変遷

1890年に染料の輸入からはじまった当社は、時代とともに変化する顧客と社会のニーズに応え、あらゆる産業の土台となるケミカル製品の取り扱いを通して事業を拡大してきました。



1890年～ 黎明期

創業と成長の時代

染料・染織機械の輸入販売からスタートし、
ケミカル分野を中心に事業を展開

1945年～ **飛躍期**

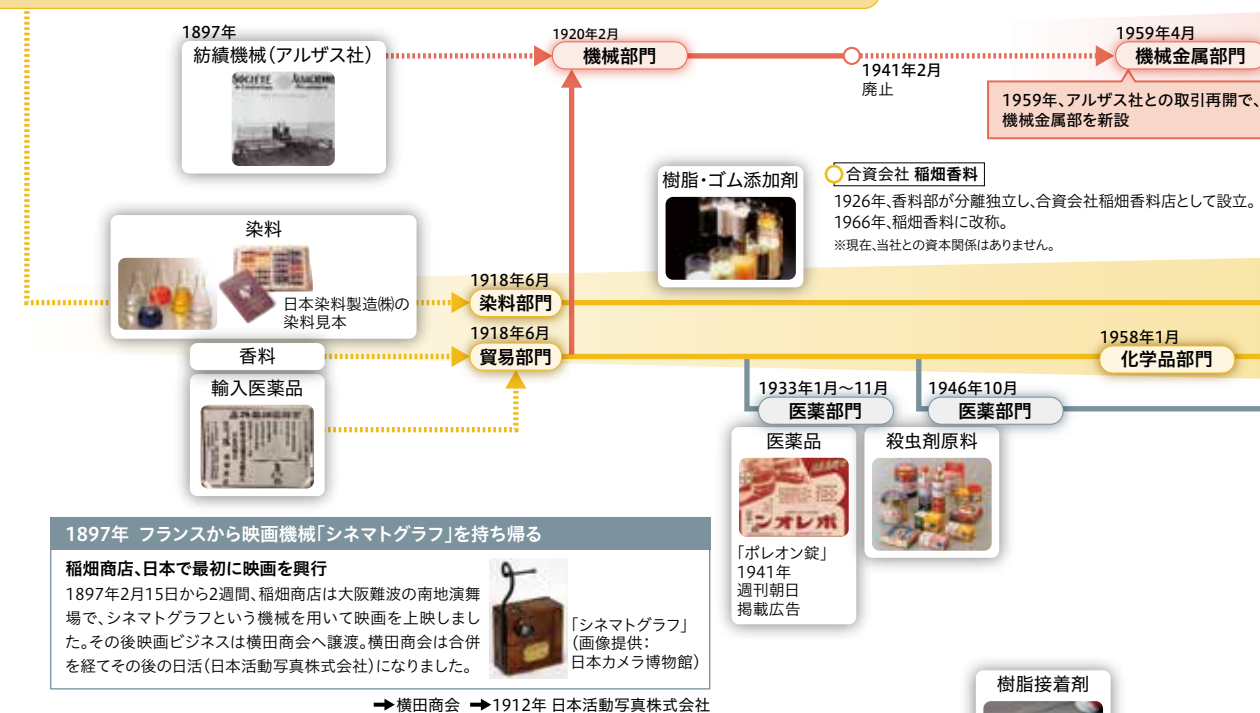
再構築と復興の時代

戦後の混乱の中、
医薬品事業の強化とともに
新たな領域へ躍進

：主な組織の変遷と主要な取扱商材開始時期

一 創業者と染料

15歳で官費留学生としてフランスに渡った創業者は、当時最先端の合成染料や染色技術を8年間学び、日本に持ち帰ります。



創業者による
日本の染織事業
発展への尽力

1895～1927年 毛斯紡織株式会社

日清戦争後の不況下で、モスリンの国産化を西陣の織物業者に提案し設立。
当時最良といわれた紡績機械製造業の仏・アルザス社との取引開始。

1897~1935年 稻畑染工場

機械設備と技術の粋を集め、自ら工場長として染色の国産化に尽力。1935年東洋紡績に事業を譲渡。

1916~1944年 日本染料製造株式会社

第一次世界大戦後、染料の輸入断絶。染料の国産化を目指し、政府に働きかけ国策で設立される。実業家の渋沢栄一も設立に関わった。

○1926年

会社解散の危機に際し、社長に就任。
「染料製造のような国家的事業は、利害を超越する覚悟が不可欠」

○1944年
住友化学工業
と合併し、IKが
特約店となる。

○1937年
医薬品生産、IK特約店
販売へ。解熱鎮痛剤、
局所麻酔剤の原薬販売

樹脂接着剤

塩化ビニル

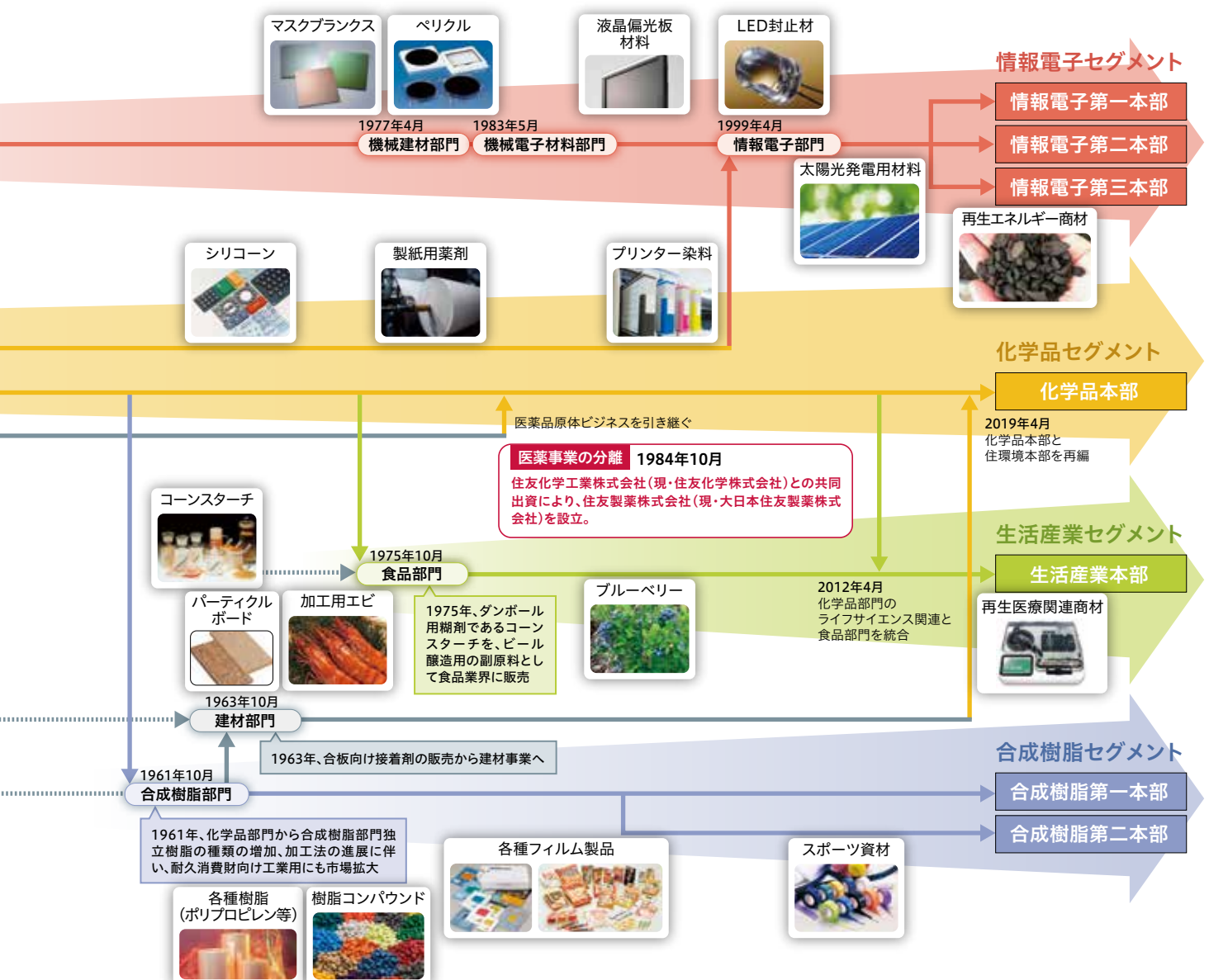


1984年～ 改革期 挑戦と試練の時代

医薬事業の分離と海外拠点の拡大により
新しい価値を創造

2010年～ 第4創業期 進化と創造の時代

商社でありつつ、製造・物流・
ファイナンス機能でも
さらなる価値を有するベストパートナーへ

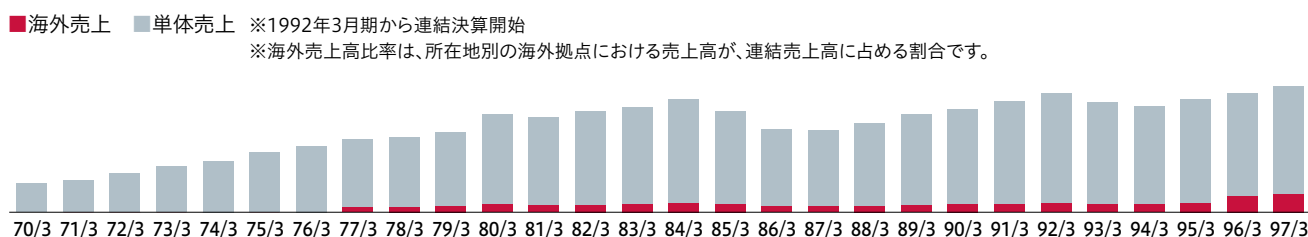


海外事業拡大の歴史

当社の海外事業は、今から110年以上前まで遡ります。1908年に中国天津に支店を設立した当社は、染料の販路を開拓しました。その後、欧州にも事業を拡大し、1937年にはベルギーのブリュッセルに日本染料製造株式会社の総代理店として出張所を開設。翌1938年からは中国の奉天（現瀋陽）、上海、天津、青島、大連、済南、さらにはバタビア（現ジャカルタ）、ハノイ、京城（現

ソウル）に染料や医薬品を販売する拠点を設置し、戦前、延べ5カ国13拠点に上りました。第二次世界大戦によってすべての海外拠点を失いますが、約30年後の1976年にはシンガポールに戦後初の現地法人を開設。以来44年間、海外展開を積極的に進め、現在17カ国約60拠点ネットワークによって海外売上高が5割を超える規模に拡大しました。

海外売上高推移



戦後の海外進出の歴史



主な商社拠点 ※オフィス入居当時のビルの写真

1976 シンガポール
戦後初の
海外営業拠点を設立
Inabata Singapore(Pte.) Ltd.



1978 米国(ニューヨーク)
Inabata America Corp.



1987 タイ(バンコク)
Siam Inabata Co., Ltd.
(現Inabata Thai Co., Ltd.)

1988 中国(香港)
稲畑産業(香港)有限公司



1988 ベルギー(ブリュッセル)
Inabata Europe S.A.
(現Inabata Europe GmbH)
※2013年ドイツに移転



1988 マレーシア(クアラルンプール)
Inabata Malaysia Sdn. Bhd.

1989 台湾(新竹)
華稲股份有限公司

主な製造加工拠点

1978 シンガポール
山陽化工株式会社と合併で樹脂コンパウンド製造のSanyo-IK Color(Pte.) Ltd.を設立
※2013年7月Inabata Singapore(Pte.) Ltd.に合併

当社の主力事業である樹脂コンパウンド事業の礎となる



1987 タイ(サムットプラカーン)
SIK(Thailand) Ltd.

1989 英国(テルフォード)
IK Precision Co., Ltd.
※2006年3月清算



1989 フィリピン(マニラ)
SIK Philippines Ltd.
※2012年6月清算

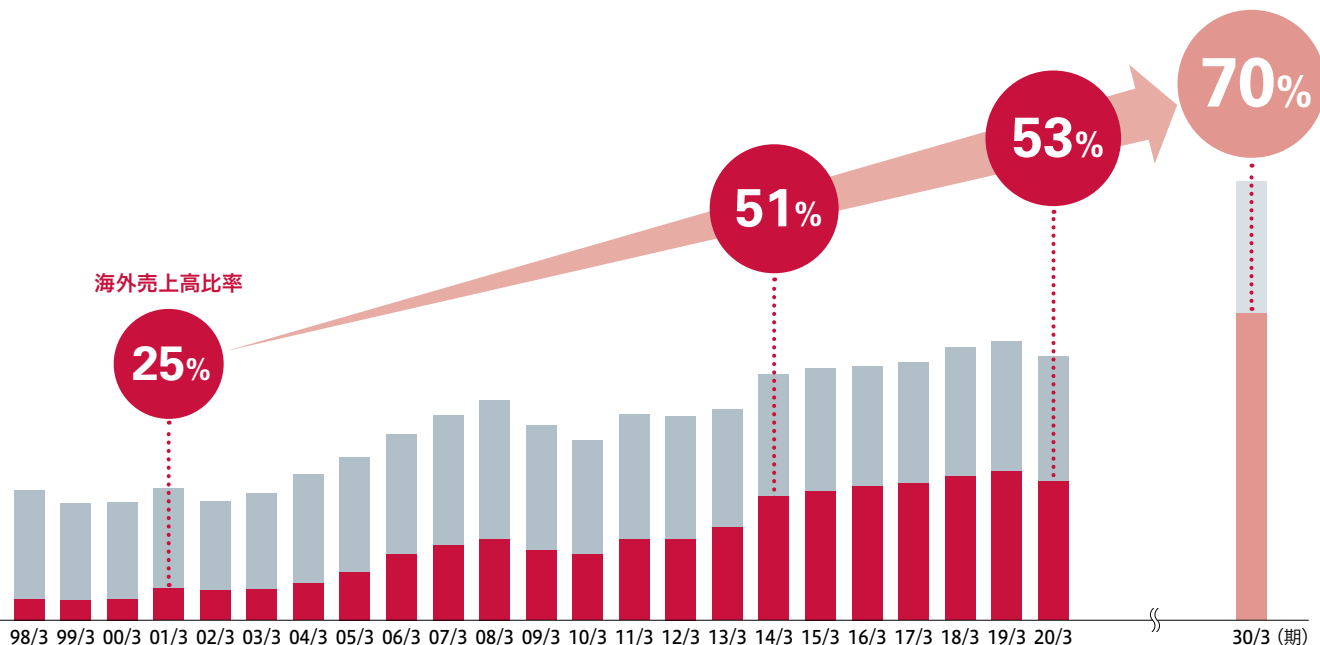


1994 マレーシア(ジョホール)
SIK Color(M) Sdn. Bhd.

1995 インドネシア(プカシ)
PT. S-IK Indonesia

1995 中国(東莞)
Sanyo-IK Color(H.K) Ltd.
Dongguan Plant
※休眠中

2002 中国(大連)
稲畑工貿(大連保税區)有限公司



2000年代 **15**カ国約**70**拠点

2010年代～現在 **17**カ国約**60**拠点

1990 フランス(パリ)
Inabata France S.A.R.L.
(現Inabata France S.A.S.)



1991 インドネシア(ジャカルタ)
PT. Inabata Indonesia

1996 中国(上海)
上海稲畑産業貿易有限公司

1998 フィリピン(マニラ)
Inabata Philippines, Inc.

2000 英国(ロンドン)
Inabata UK Ltd.



2006 韓国(ソウル)
Inabata Korea & Co., Ltd.

2006 ポーランド(トルン)
Inabata Poland Sp.z o.o.
※2014年2月清算

2008 ベトナム(ハノイ)
Inabata Vietnam Co., Ltd.

2008 インド(ニューデリー)
Inabata India Private Ltd.



2010 スイス(ツーク)
Inabata France S.A.S.,
Lisses, Zug Branch
※2011年12月清算

2012 メキシコ(ケレタロ)
Inabata Mexico, S.A. de C.V.

2013 ミャンマー(ヤンゴン)
Inabata Thai Co., Ltd.,
Yangon Branch

2013 トルコ(イスタンブール)
Inabata Singapore(Pte.)
Ltd., Istanbul
Representative Office

2013 ブラジル(サンパウロ)
Inabata Brasil
Importação e
Exportação Ltda.

2013 ドイツ(デュッセルドルフ)
Inabata Europe GmbH

2015 UAE(ドバイ)
Inabata Europe GmbH
Middle East(Branch)
※清算手続中

2003 ベトナム(ハイフォン)
SIK Vietnam Co., Ltd.

2006 フランス(ノルマンディー)
Pharmasynthese S.A.S.



2007 中国(上海)
上海稲畑精細化工有限公司

2008 メキシコ(モンテレイ)
NH Inabata, S. de R.L. de C.V.

2009 メキシコ(ティファアナ)
IK-Tech de Mexico,
S. de R.L. de C.V.
※2016年3月清算

2009 インドネシア(ブカシ)
PT. Inabata Creation Indonesia

2012 メキシコ(シラオ)
IK Plastic Compound Mexico,
S.A. de C.V.

2013 フィリピン(ビニヤン)
IK Plastic Compound Phils. Inc.

2013 ベトナム(ダナン)
Apple Film Da Nang
Co., Ltd.



事業紹介

情報電子・化学品・生活産業・合成樹脂の4セグメント、7本部で事業を展開しています。

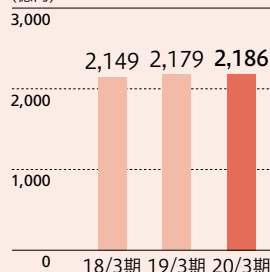
情報電子セグメント

ディスプレイ部材、プリンタトナー原料、半導体材料などを収益の柱に持ちながら、その領域に留まらずに、農業、自動車、ライフサイエンスなど、新規分野にも参入しました。近年成長が期待されるIoT、再生可能エネルギー商材も実績を上げつつあります。

情報電子第一本部 ▶P10 情報電子第二本部 ▶P11
情報電子第三本部 ▶P12

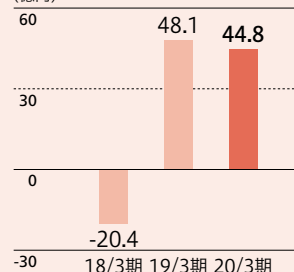
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



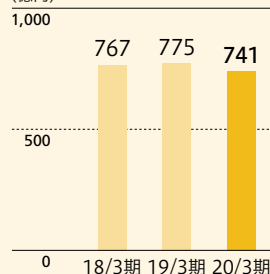
化学品セグメント

創業の染料ビジネスを源流に、あらゆる産業のプラットフォームである化学品を取り扱っています。これまでの歴史の中で伸びゆく事業は分離独立し、新たな可能性を追求し続けています。国内市場は成熟しており、海外で活路を見出しました。2019年4月には最終製品に近い商材を取り扱っていた住環境部門を統合し、バリューチェーン全体へ最適な商材、サービスを提供します。

化学品本部 ▶P13

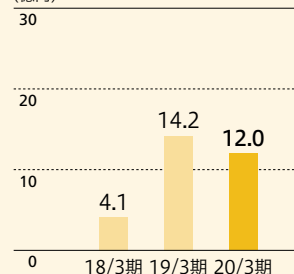
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



※18/3期、19/3期は統合前の住環境セグメント数値との合算値。

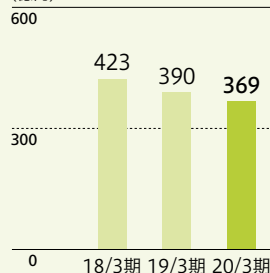
生活産業セグメント

医薬販売事業は1984年に住友製薬株式会社(現:大日本住友製薬株式会社)に継承した後、医薬品原体の販売をメインにしました。食品はコーンスターチの食品業界への展開から取り扱いを開始しました。医薬も食品も消費者の健康で快適な生活の実現に貢献できるとし、2012年、新たに生活産業セグメントとしてスタートしました。

生活産業本部 ▶P14

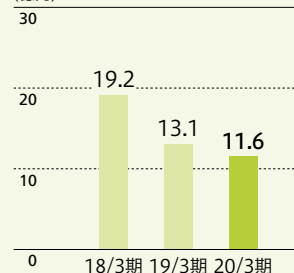
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



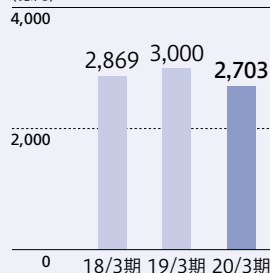
合成樹脂セグメント

1949年に輸入塩化ビニル樹脂の取り扱いを開始し、1959年には国内で初めてポリプロピレンを輸入し販売しました。現在は汎用樹脂から高機能樹脂まで、自動車、家電、OA機器、食品軟包装、スポーツ資材など幅広い分野に販売しています。プラスチックごみ問題が深刻化するなか、生分解プラスチックやCNF樹脂複合材などバイオマス商材にも着目した商品開発に取り組んでいます。

合成樹脂第一本部 ▶P15 合成樹脂第二本部 ▶P16

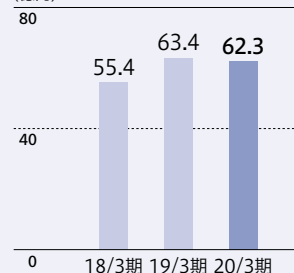
売上高

(億円)



営業利益

(億円)





情報電子第一本部

FPDを軸としながら 新ビジネス展開へ

情報電子第一本部では、液晶・有機EL(OLED)を中心としたフラットパネルディスプレイ(FPD)やLED関連業界への部材を中心に、偏光フィルムやバックライトの各種部材、LED封止材や液晶に使われる特殊テープの原料などを取り扱い、さまざまなサービスを内外の幅広い顧客に提供しています。

これまでに培われてきたさまざまな加工やサプライチェーン構築の実績はもとより、専門知識と情報力を

基礎とする提案型ビジネスは、当本部の大きな強みです。国内の顧客との関係強化はもちろんですが、中国、台湾、韓国、アメリカなど海外メーカーとの液晶・有機EL(OLED)ビジネス拡大にも注力しています。

これらのビジネスを核としつつ、新規分野においても、既存顧客などとのネットワークを活用した新たなビジネスの開拓に取り組んでいます。

事業内容

第一営業部

独自のグローバルサプライチェーンを生かし、きめ細かなサービスを提供。

取扱品目

偏光板、偏光板原料、配向膜、バックライト関連部材、有機EL(OLED)関連部材、タッチパネル関連部材、液晶前工程薬液

第二営業部

ディスプレイ用LED封止材や有機EL(OLED)関連装置など幅広い商材を取り扱う。新規分野にも進出。

取扱品目

LED封止材、特殊テープ用原料、液晶・有機EL(OLED)を中心とした関連装置



情報電子第二本部

デジタル印刷・イメージング関連を中心に、 商社の強みを生かして事業領域を拡大

情報電子第二本部は、インクジェット、電子写真、3Dプリンターなどのデジタル印刷やイメージング関連業界に各種原材料を販売しています。また、長い歴史のなかで培った業界での専門知識と情報力を生かし、お取引先様に対してさまざまな提案を行っています。世界各リージョンのグループ会社とグローバルに連携し

て、物流管理を含む幅広いサービスを提供しています。

また、新たな領域でのビジネスにも取り組んでおり、自動車分野では加飾フィルムやTOM工法と呼ばれるユニークな加飾技術を活用したビジネスを展開しています。農業分野では、農家の生産性を高めるための新たな資材や飼料などの事業を進めています。

事業内容

第一営業部

電子写真業界向けにトナー原料や周辺部材に使用される原材料を販売。3Dプリンター関連製品ならびにフィルム関連材料を販売。

取扱品目

トナー原材料・ 現像材	樹脂、顔料、ワックス、各種添加剤 他
各種機能性材料	シリコーン製品、潤滑剤、フィルム材料、静電防止・導電性コート剤、3Dプリンター用フィラメント材料 他
農業関連	各種農業用資材、飼料原料、酪農関連資材

第二営業部

インクジェット業界向けにインク原料や周辺部材に使用される原材料を販売。

取扱品目

インクジェット原料	染料、顔料、溶剤、各種添加剤
その他	樹脂、フィルム製品、成形部材

第三営業部

イメージング・半導体・自動車・ライフサイエンス関連の材料および設備の販売。

取扱品目

光学フィルム原材料	樹脂添加剤、可塑剤、各種機能性添加剤 他
各種機能性材料	半導体原料、写真薬原料、印刷版原料、セラミックス材料、高機能樹脂（樹脂加工含む）、各種中間体（受託合成含む） 他
加飾フィルム関連材料	自動車・建材・家電用各種フィルム、TOM成形機 他



情報電子第三本部

再生可能エネルギー、IoTなど成長市場向けビジネスを強化

情報電子第三本部は、主に再生可能エネルギーや半導体・電子部品、工業用材料などの幅広いビジネスフィールドで、原料からプロセス材料、製品まで、高度な専門性を駆使したソリューションを提供しています。また、海外ネットワークを活用した最適な原材料の探索やベンダー主導型在庫管理(VMI)の提案など、商社ならではの強みを生かし、お客様のニーズにきめ細かく対応しています。

成長市場向けのビジネスを強化するために、再生可能エネルギー分野では太陽電池およびLiB用材料・部

材をコアに、水素発生装置や風力発電機用ブレード、バイオマス発電用燃料など、商材の幅を広げています。同時に、拡大するIoT市場向けでは低消費電力型サーバーやコンテナ型データセンターを軸に周辺部材の取り扱い拡充に注力しています。

これからも“お客様の課題を解決するソリューションプロバイダー”の役割を果たすため、専門知識とスキルを有する人財の育成とグローバルネットワークの強化に努めていきます。

事業内容

第一営業部 各種工業製品の販売。

取扱品目

各種工業・電子・光学材料分野

機能性フィルム(工業・電子・光学用)、テープおよびテープ材料(基材・ライナー・各種ケミカル)、衛生用品材料(不織布等)、フッ素樹脂、蓄光材料、透明ポリイミド原料、スマートカード材料、3Dセンサーおよびセンサー材料、産業用ロボット、無線充電モジュール、5G関連材料

第二営業部 半導体関連材料、電子デバイス関連材料、各種工業材料の販売。

取扱品目

半導体・電子部品関連

マスクブランクス(半導体、FPDのフォトマスク原版)、ペリクル(フォトマスクの異物混入防止カバー)、化合物半導体ウエハー、半導体用反射防止コーティング材(BARC)、半導体封止材、ダイシングテープ、半導体ウエハーコート材、300mmシリコンウエハー、高純度アルミナ、パイヤーアルミナ、各種センサー材料

プロセス装置用部品 サセプター

第三営業部

創エネルギー、蓄エネルギーなど各種エネルギー分野における製品、材料の販売。

取扱品目

創エネルギー分野

太陽光発電システム関連部材(パネル・パワコン・各種架台)、次世代太陽電池材料(銀ペースト・封止材・シリコン接着剤)、風力発電システム関連部材(小型風力発電機・パワコン)、水素エネルギー関連部材(AEM水素製造装置・燃料電池)、バイオマス発電用燃料

蓄エネルギー分野

リチウムイオン電池材料、リチウムイオン電池セル、モジュール、電池組立装置、キャパシタ用材料

省エネルギー・放エネルギー分野

人工知能・ブロックチェーン用クラウドシステム、省電力ARMストレージサーバー、モーター・ジェネレーター用部品、インバーター・コンバーター用部品



化学品本部

化学品原料を中心に工業品原料用途から車両、住環境用途に至るまで幅広く展開

化学品本部は、商社でありながら製造・加工拠点をもち当社ならではのアドバンテージを生かしつつ、バリューチェーンの上流から中流を担う化学品3部と、最終製品に近い下流を担う建材部がシナジーを発揮し、お客様に最適な商材・サービスを提案しています。

化学部門は、合成樹脂・ウレタン・繊維などの石油化学関連産業に対する原料・中間物の販売をメインとする「スペシャリティケミカル部」、塗料・インキ・接着

剤を三本柱に添加剤や溶剤など幅広い原材料を供給する「パフォーマンスケミカル部」、自動車を中心に船舶や航空機で使われる摩擦材・タイヤ原料・放熱材などを販売する「モビリティケミカル部」から成り立っています。また、建材部門はハウスメーカーや建材・住設材メーカーが必要とする環境に配慮した建材、パーティクルボード・木材・住設機器・プラスチック製品やその原料などを「建材部」で取り扱っています。

事業内容

■ スペシャリティケミカル部

合成樹脂、スーパーエンジニアリングプラスチック、ウレタン、合成繊維の各業界への原料・中間物の販売。特殊エラストマーの販売。製紙・ダンボール用原料ならびに情報記録紙用原料の供給。

取扱品目

合成樹脂原料、合成繊維原料、触媒、酸化防止剤、紫外線吸収剤、溶媒、重合開始剤、機能性樹脂、機能性繊維、ヘルスケア関連（シリコン、チューブ）、情報記録紙用原料、ポリウレタン原料、パイプライン全般製品、インフラ・土木関連の材料等

■ パフォーマンスケミカル部

塗料、インキ、接着剤の各業界向けに各種樹脂やコーティング原材料を幅広く提供。

取扱品目

樹脂、樹脂原料、消泡剤、防汚剤、粘性調整剤、顔料等

■ モビリティケミカル部

自動車部品用原料・化学品の販売。

取扱品目

EV用放熱材および原料、摩擦材、ガスケット・タイヤ原料、エアバッグ原料、車載ディスプレイ部品関連

■ 建材部

住宅・建材・住設機器メーカー向けに、原材料から製品までを幅広く販売。集成材メーカーへの原材料輸入販売と海外マーケットへの製品輸出版売。

取扱品目

パーティクルボード（繊維板）、内装建材、外装建材、水回り製品、木質ボード用接着剤、樹脂成型品等

輸入商材

集成材原材料、LVL、木質系チップ等

輸出商材

ウッドプラスチック複合デッキおよび外装材、住設機器向け樹脂材等



生活産業本部

健康で快適な生活の実現に向けて 食とライフサイエンスの事業を展開

生活産業本部は、主に医農薬、防虫・殺虫剤や芳香・消臭剤などの原料を取り扱う「ライフサイエンスビジネス」と、水産・農産物を取り扱う「食品ビジネス」を展開しています。

ライフサイエンスビジネスは、海外拠点での医農薬原料・中間体の製造をはじめ、先端医療用装置・材料の調達、有機合成受託サービス、医薬品物流サービス、さらには家庭用品の企画開発までトータルソリューションを提供しています。

食品ビジネスでは、安心・安全な農産物・水産物を

世界中から輸入・販売するだけでなく、北海道のブルーベリー栽培やベトナムでの水産品加工などにも取り組み、川上から川下まで幅広い分野でビジネスを展開しています。

また、当本部ではグローバルビジネスの強化にも注力しており、アジア地域のドラッグストアで需要が高い“日本クオリティの機能性食品・飲料”のPB製品の展開を進めています。加えて、海苔、ワサビなど、日本食材の海外展開や三国間取引を進めていきます。

事業内容

ライフサイエンス部

ライフサイエンス分野のさまざまなシーンにおいて、日用品から医薬品までグローバルに原料調達をサポート。また、各種製品のサプライチェーン構築にトータルソリューションを提供。

取扱品目

医薬品・先端／再生医療・化学品業界
医薬品原体・中間体、再生医療用機器・消耗品、化学合成用特殊試薬・触媒、その他ファインケミカル

防虫・殺虫剤業界
防・殺虫剤原料、溶剤、その他ファインケミカル

ホーム・プロダクツ業界
日用品原料、化粧品原料、機能性食品・健康飲料、その他ファインケミカル

食品部

「顔の見える生産者から顔の見える消費者へ」をモットーに、安心・安全な農産物、水産物を世界中から提供。北海道でのブルーベリー栽培や、ベトナムでの水産品加工など、川上から川下まで、幅広い分野・地域で新規ビジネスを創出。

取扱品目

農産物
ブルーベリー、マンゴー、ブドウ、イチゴなどの冷凍果実、およびホウレンソウ、サトイモ、カボチャなどの冷凍野菜

水産物
切り身魚、海老、蟹、貝類、イカ等



合成樹脂第一本部

独創性豊かなパートナーとして お客様と共に発展

合成樹脂第一本部では、成型材第一部と第二部で生活用品や建材・土木向けの合成樹脂、機能樹脂部で家電・OA機器、電気・電子向けの高機能樹脂材料や関連資材、自動車材料第一部と第二部で自動車や自動二輪向けの合成樹脂および樹脂コンパウンド製品を取り扱っています。

アジアの6カ国とメキシコの計7カ所で樹脂コンパウンド工場を運営し、材料の選定から加工に至るトータルなサービスを提供しています。海外拠点には合成樹脂のスペシャリストを配置するほか、現地スタッフをマネージャーに登用するなど、現地で人財を育成することで情報力の向上を図っています。また海外で自

社倉庫を構え、物流機能拡充にも取り組んでいます。このように海外拠点を強化することで、お客様の工場の海外移転や現地生産化にもきめ細やかに対応。樹脂コンパウンド以外にもグループの強みである優れた開発力や特殊技術を生かし、国内外の製造拠点や加工技術のさらなる強化・拡充を図りながら、合併事業や異業種間のコラボレーションにも取り組んでいます。

今後もさらに高度な専門知識を有する人財を育成し、環境保全や安全性などの課題解決に貢献する製品・サービスを提供し、お客様と共に発展できる独創性豊かなパートナーであり続けたいと考えています。

事業内容

成型材第一部・成型材第二部

国内外において、建材、土木、生活用品、自動車、電材、食品容器、医療などさまざまな業界へ合成樹脂、各種加工品、機械設備を販売。

取扱品目

塩ビ樹脂、可塑剤、添加剤、汎用樹脂（オレフィン系、スチレン系、PET樹脂）、各種コンパウンド、各種エラストマー、エンジニアリングプラスチック、合成ゴム、樹脂製品（異形押出品、フィルム・シート、包装材）、機械設備

機能樹脂部

OA、家電、電気・電子マーケットを中心にグローバルでの樹脂材料の最適調達を提案。顧客とサプライヤー間のコーディネーターとしての役割を担い、海外進出されるお客様には、マーケット調査、労務、法務などの情報を提供。

取扱品目

汎用樹脂からスーパーエンジニアリングプラスチックまで、成型機・付帯設備、レーザー溶着機、特殊成型加工品および関連部材、リサイクル材

自動車材料第一部・自動車材料第二部

車両マーケットを中心に樹脂材料および、物流ソリューションの提案、さらには製造設備のファイナンスサポートまで複合的な営業活動を展開

取扱品目

汎用樹脂からスーパーエンジニアリングプラスチックまで、成型機・付帯設備、レーザー溶着機、放熱関連製品、特殊成型加工品

事業開発部

専門知識やノウハウを生かし、素材の提案から特殊成型技術、加工、製品に至るまでの「ものづくり」をサポート。

取扱品目

ストレッチャブルPCB、高融点材料への加飾（めっき）技術、異種材料接合技術、アルミ「インパクト工法」製品、CNF（セルロースナノファイバー）+樹脂複合材料、生分解性プラスチック



合成樹脂第二本部

フィルム・シートに関する トータルソリューションを提供

合成樹脂第二本部は、フィルム・シートに関する企画立案から素材選定、製造加工を行うほか、最終製品、およびパッケージングに関する企画などを提案しています。その取り扱い分野は、ポリエチレン樹脂やフィルム製品などの産業資材、加工用フィルム、ラミネート製品、シート用樹脂原料および成形品、スポーツ資材など多岐にわたります。

国内に製造子会社3社と販売子会社1社を持ち、海外においてもタイ・インドネシア・ベトナムに製造工場

を保有するなど、商社という枠を超えて原材料から成形まで一貫した体制を整えていることが当社の強みです。

今後も、フィルム業界における“総合パッケージングプランナー”として、日本が誇る高品質フィルム製品の海外展開を図っていくとともに、国内加工メーカーの海外進出もサポートしていきます。また海外で、日本と同等の品質レベルのフィルム製品を発掘し、日本に輸入するという新たなビジネスを視野に入れています。

事業内容

産業材部

国産・輸入各種ポリオレフィン樹脂、再生樹脂、フィルム製品の販売。

取扱品目

国産・輸入ポリオレフィン樹脂(LLDPE、HDPE、LDPE、再生樹脂)
PEフィルム製品(国産・輸入のPE袋・フィルム 他)

フィルム・機能材部

各種プラスチックフィルム(包装材料、工業用)の販売。
フィルム加工製品の販売。

取扱品目

国内・海外ラミネート用フィルム
ラミネート製品
国内・海外工業材料用フィルム
環境プラスチック原材料

シート・成形材部

各種シートの原料から成形品までの販売。
スポーツ資材の材料、製品の販売。

取扱品目

シート用樹脂(PP、PS、PET)
各種樹脂シート、成形品(PP、PS、PET)
スポーツ関連(テニス・バドミントン・野球用オーバーグリップ、テニスラケット用振動吸収材他、スポーツアクセサリ全般)

新事業・新市場への展開

中期経営計画で掲げた成長が見込める市場・未開拓分野への注力

Field 1

自動車分野

環境対応技術や自動運転技術が進展するなか、
自動車にはより豊かな社会を創造するイノベーションが求められています。
当社はグローバルネットワークを生かして幅広い自動車産業向けビジネスを展開しています。

- 車両内外装用加飾フィルムおよび関連装置
- 車載向け電子デバイス材料
- EV・PHEV用駆動、制御部品
- タイヤ用、エアバッグ用、電装部品用材料
- 車両関連部品用樹脂
- 自動車部品搬送ケース用シート
- 車載用ディスプレイ
- EVバッテリー用放熱材料



Field 2

環境・エネルギー分野

天然資源の枯渇や気候変動のリスクが深刻化するなか、
エネルギーの有効活用や廃棄物の削減などが求められています。
当社はケミカル分野での専門的な知見を生かし、さまざまな環境・エネルギービジネスを展開しています。

- 人工知能、ビッグデータ、フィンテック、
セキュリティ、IoT関連商材
- 再生エネルギーと蓄エネルギーシステム
- 住宅向け環境配慮型商品
- 太陽電池材料、太陽光発電システム
- 燃料電池スタック、燃料電池システム
- PKS※1、小型バイオマス発電機
- 再生プラスチック原料
- CNF※2 + 樹脂複合材、各種リサイクル材

※1 Palm Kernel Shell=パームヤシ殻(燃料用)

※2 Cellulose Nano Fiber=天然由来のナノサイズセルロース繊維



Field 3

ライフサイエンス・医療分野

日本だけでなく世界にも高齢化の波が押し寄せており、求められる医療技術や医薬品も変化しはじめています。

当社は、長年培ってきた強みを生かせる再生医療分野を中心にビジネスを展開しています。

- 各種医療機器・消耗品
- 再生医療、細胞治療用セルソーター
- 細胞培養用培地添加剤、
多能性幹細胞の細胞凝集制御剤試薬
- リボソーム製剤※および関連原材料
- ヘルス関連材料

※薬の有効成分を微小なカプセルのようなもので包み、的確に患部に運び有効性を高め、非患部への副作用を低減する手法を用いた製剤。一般的にドラッグデリバリーシステムの製剤技術の一手法



Field 4

農業を含む食品分野

少子高齢化に伴う就農人口の減少などの影響で、日本の農業は一層の効率化が求められています。

当社は農業だけでなく、漁業領域にも参入するなど、多様な食品分野のビジネスをグローバルに展開しています。

- 各種農業関連資材
- 飼料原料、牛群管理ソフトウェア※
およびデバイス／センサーの開発
- 自社農場における、ブルーベリー、
ニンニクの大規模栽培
- 野菜鮮度保持フィルム製品、
環境対応型フィルムの開発
- 冷凍野菜工場
- 鮮魚仲卸ビジネス

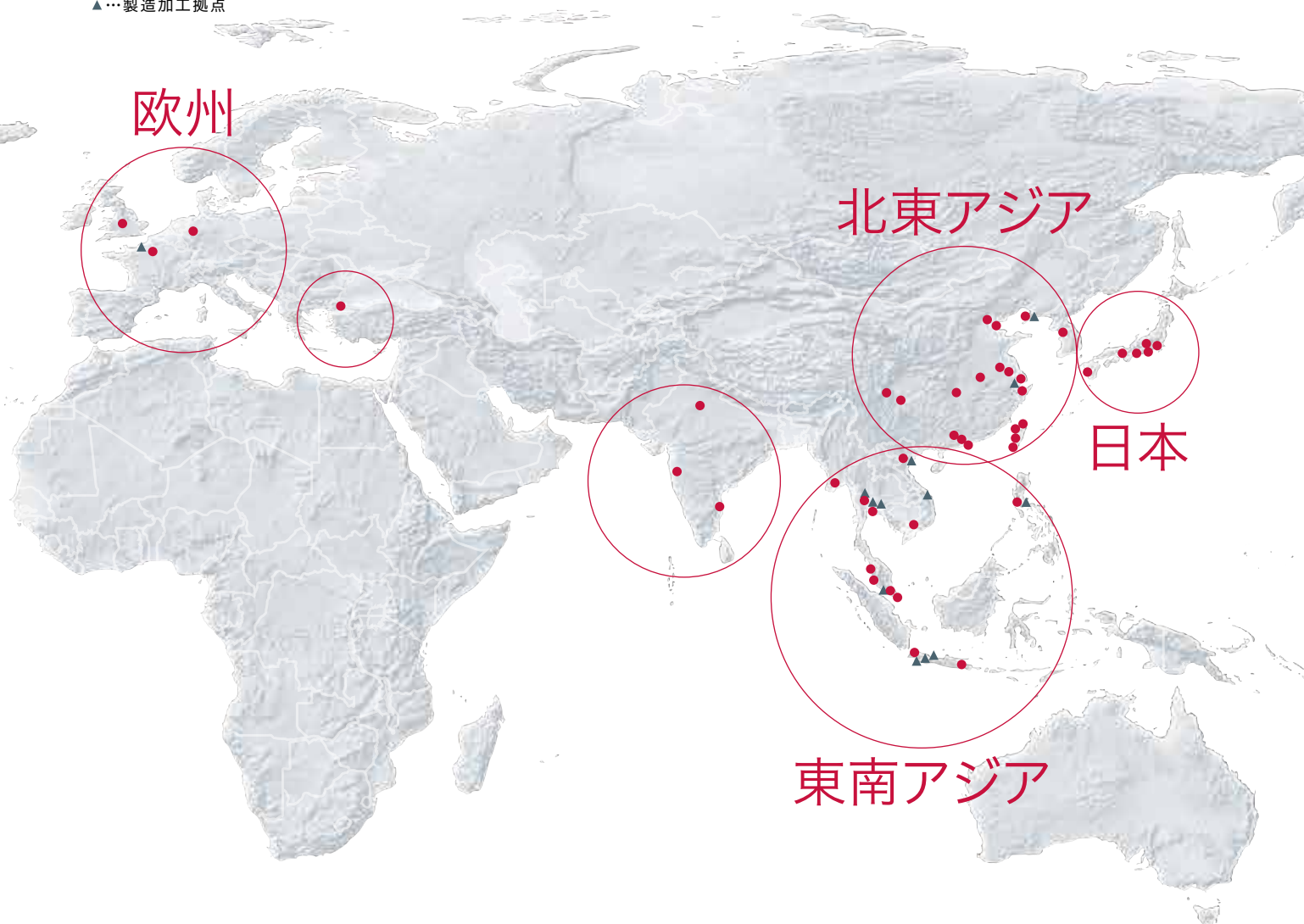
※アニマルウェルフェア（動物福祉）を基礎とした牛群管理（繁殖管理・健康管理）の効率化が図れるソフトウェア



海外17カ国・約60拠点に広がる 稲畑産業のネットワーク

●…商社拠点

▲…製造加工拠点



欧州

ドイツ	デュッセルドルフ
フランス	ヴィシー(パリ近郊) ノルマンディー
英国	テルフォード (バーミンガム近郊)
トルコ	イスタンブール

東南アジア／インド

シンガポール	
マレーシア	クアラルンプール、ペナン ジョホール
インドネシア	ジャカルタ、スラバヤ ブカシ(ジャカルタ近郊)
フィリピン	ビニャン(マニラ近郊)
ベトナム	ハノイ、ホーチミン ハイフォン、ダナン
タイ	バンコク サムットプラカーン(バンコク近郊) アユタヤ シラチャ(レムチャバン近郊)
ミャンマー	ヤンゴン
インド	グルグラム(デリー近郊) チェンナイ、プネ

北東アジア

中国	香港、上海 無錫、寧波 成都、南京 合肥、重慶 北京、大連 天津、広州 武漢、深圳
台湾	新竹、台南 台中、台北
韓国	ソウル



日本

東京
大阪
名古屋

塩尻
浜松
霧島

米州

米国
ニューヨーク、ロサンゼルス
デトロイト
ノバト(カリフォルニア州)

メキシコ
ケレタロ、ティファナ
シラオ

ブラジル
サンパウロ

東南アジア／インド

域内に10の製造加工拠点を有し、
各事業におけるビジネス拡大に注力しています。

売上高 **1,346** 億円

連結従業員 **2,414** 人

※売上高は20/3期、従業員は2020年3月31日現在

● 商社 ▲ 製造加工拠点

東南アジア地域は、主力事業である樹脂コンパウンド生産能力の約8割(年約15万トン)を供給する重要地域で、電気・電子、OA、自動車・二輪の主力3分野を中心に合成樹脂製品を展開しています。今後、同エリアで成長著しい自動車分野向け事業を伸ばす一方、環境配慮型製品や太陽光などのエネルギー関連、農業、食品分野で新規需要を取り込む計画です。



製造・加工拠点



PT. IK Precision Indonesia
[Bekasi, INDONESIA]
合成樹脂の成型加工



PT. Inabata Creation Indonesia
[Bekasi, INDONESIA]
グリップテープの加工



PT. S-IK Indonesia
[Bekasi, INDONESIA]
樹脂コンパウンド



SIK Color(M) Sdn. Bhd.
[Johor, MALAYSIA]
樹脂コンパウンド



IK Plastic Compound Phils. Inc.
[Binan, PHILIPPINES]
樹脂コンパウンド



Apple Film Co., Ltd.
[Samut Prakan, THAILAND]
プラスチックフィルムの製造



Hi-Tech Rubber Products Co., Ltd.
[Ayutthaya, THAILAND]
各種ゴム成型品の製造



SIK (Thailand) Ltd.
[Samut Prakan, THAILAND]
樹脂コンパウンド



Apple Film Da Nang Co., Ltd.
[Da Nang, VIETNAM]
プラスチックフィルムの製造



SIK Vietnam Co., Ltd.
[Haiphong, VIETNAM]
樹脂コンパウンド

主要な連結子会社

● Inabata India Private Ltd.	グルグラム(デリー近郊)	合成樹脂、電子材料、化学品等の輸出入、販売
▲ PT. IK Precision Indonesia	プカシ(ジャカルタ近郊)	合成樹脂の成型加工
▲ PT. Inabata Creation Indonesia	プカシ(ジャカルタ近郊)	グリップテープの加工
● PT. Inabata Indonesia	ジャカルタ	合成樹脂、化学品等の輸出入、販売
▲ PT. S-IK Indonesia	プカシ(ジャカルタ近郊)	樹脂コンパウンド
● Inabata Malaysia Sdn. Bhd.	クアラルンプール	合成樹脂等の輸出入、販売
▲ SIK Color(M) Sdn. Bhd.	ジョホール	樹脂コンパウンド
▲ IK Plastic Compound Phils. Inc.	ビニヤン(マニラ近郊)	樹脂コンパウンド
● Inabata Philippines, Inc.	ビニヤン(マニラ近郊)	合成樹脂等の販売
● Inabata Singapore(Pte.) Ltd.	シンガポール	合成樹脂、化学品、情報電子関連の輸出入、販売
▲ Apple Film Co., Ltd.	サムットプラカーン(バンコク近郊)	プラスチックフィルムの製造
▲ Hi-Tech Rubber Products Co., Ltd.	アユタヤ	各種ゴム成型品の製造
● Inabata Thai Co., Ltd.	バンコク	合成樹脂、化学品、食品、機械等の輸出入、販売
▲ SIK (Thailand) Ltd.	サムットプラカーン(バンコク近郊)	樹脂コンパウンド
▲ Apple Film Da Nang Co., Ltd.	ダナン	プラスチックフィルムの製造
● Inabata Vietnam Co., Ltd.	ハノイ	合成樹脂、電子材料、化学品等の輸出入、販売
▲ SIK Vietnam Co., Ltd.	ハイフォン	樹脂コンパウンド

北東アジア

中国、台湾、韓国の19都市を結ぶネットワークを生かし、
稲畑産業の中核事業を発展させています。

売上高 **1,520** 億円

連結従業員 **626** 人

※売上高は20/3期、従業員は2020年3月31日現在

● 商社 ▲ 製造加工拠点

北東アジア地域は、主力の液晶関連部材をはじめ、自動車、OA、電気・電子などの分野で日系／非日系の顧客に合成樹脂を販売しています。また、化学品の環境規制が強まるなかで新商材の提案も進めています。今後は、食品の安全や環境配慮、ライフサイエンス、エネルギーなどトレンドを踏まえた新規事業開拓にも注力していきます。



製造・加工拠点



稲畑工貿(大連保稅区)有限公司
[中国 大連市]
樹脂コンパウンド



上海稲畑精細化工有限公司
[中国 上海市]
塗料原料の加工

主要な連結子会社

●▲ 稲畑工貿(大連保稅区)有限公司	大連	樹脂コンパウンドおよび合成樹脂、化学品等の輸出入、販売
● 稲畑産業(香港)有限公司	香港	合成樹脂、機械、電子材料、化学品等の輸出入、販売
● 広州稲畑産業貿易有限公司	広州	合成樹脂、機械、電子材料、化学品等の輸出入、販売
● 上海稲畑産業貿易有限公司	上海	合成樹脂、化学品等の輸出入、販売
▲ 上海稲畑精細化工有限公司	上海	塗料原料の加工
● Inabata Korea & Co., Ltd.	ソウル	電子材料等の輸出入、販売
● 華稲股份有限公司	新竹	電子材料、半導体関連機器、化学品等の輸出入、販売

その他主要な関係会社

● 天津稲畑産業国際貿易有限公司	天津	合成樹脂、電子材料、化学品等の輸出入、販売
------------------	----	-----------------------

米州

米国、メキシコでの展開に加え、ブラジルを中心とした南米事業の拡大に取り組んでいます。

売上高 **219** 億円
連結従業員 **249** 人

※売上高は20/3期、従業員は2020年3月31日現在

米州地域は、イメージング、半導体、太陽電池、自動車、食品や医薬関連など、幅広い分野で事業を展開しています。とくに設計・企画・製造・物流などの機能を発揮することで取引先への付加価値の提供に努めています。今後はグループ会社であるDNI社に統合した食品事業、メキシコでの樹脂事業を拡大させることに注力していきます。



製造・加工拠点



IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.
[Silao, MEXICO]
樹脂コンパウンド

主要な連結子会社

▲ IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.	シラオ	樹脂コンパウンド
● Inabata Mexico, S.A. de C.V.	ケタロ	合成樹脂等の販売
▲ NH Inabata, S. de R.L. de C.V.	ケタロ	クレーンの設計、施工販売
● DNI Group, LLC	ノバト(カリフォルニア州)	食品の輸出入、販売
● Inabata America Corp.	ニューヨーク	合成樹脂、情報電子関連材料、化学品等の輸出入、販売

その他主要な関係会社

- Inabata Brasil Importação e Exportação Ltda. サンパウロ 化学品、合成樹脂等の販売

欧州

化学品、エネルギー、自動車、工業材料、ライフサイエンスなど、独自の機能と機動力を生かした事業を展開しています。

売上高 **76** 億円
連結従業員 **69** 人

※売上高は20/3期、従業員は2020年3月31日現在

欧州地域では、情報電子、化学品、合成樹脂、生活産業セグメントの製品を幅広く取り扱っています。例えば、ドイツではデジタル印刷・イメージング関連をはじめ、エネルギー関連、自動車関連、化学品、合成樹脂を、フランスではライフサイエンス関連製品を販売しています。今後は、食品や二次電池、医療分野での新規開拓も展開していきます。



製造・加工拠点



Pharmasynthese S.A.S.
[Normandy, FRANCE]
精密化学品の製造

主要な連結子会社

● Inabata France S.A.S.	ヴィスー(パリ近郊)	化学品の輸出入、販売
▲ Pharmasynthese S.A.S.	ノルマンディー	医薬品・化粧品原料、精密化学品の製造
● Inabata Europe GmbH	デュッセルドルフ	電子材料、化学品、合成樹脂等の輸出入、販売
● Inabata UK Ltd.	テルフォード(バーミンガム近郊)	不動産賃貸管理および倉庫業

日本

製造・加工拠点



アイ・アンド・ビー(株)
[宮城県大崎市]
合成樹脂の成型加工



(株)一光園
[大阪府堺市]
水産物等の加工



イナバオプテック(株)※
[神奈川県川崎市]
光半導体封止樹脂の研究・開発



エヌ・アイ・シー(株)
[茨城県常総市]
プラスチックフィルム製品の加工



関西高分子工業(株)
[奈良県大和郡山市]
プラスチックフィルムの製造



太洋プラスチック(株)
[埼玉県蓮田市]
プラスチックフィルムの製造

※画像はイナバオプテックが入居する
「かながわサイエンスパーク」

主要な連結子会社

▲ アイ・アンド・ビー(株)	宮城県大崎市	合成樹脂の成型加工
▲ (株)一光園	大阪府堺市	水産物等の加工販売
● 稲畑ファイントエック(株)	大阪市中央区	化学品等の販売
▲ エヌ・アイ・シー(株)	東京都葛飾区	プラスチックフィルム製品の加工販売
● オルディ(株)	大阪市中央区	プラスチックフィルム製品・梱包資材の加工 および付帯機器、システムの設計販売
▲ 関西高分子工業(株)	奈良県大和郡山市	プラスチックフィルムの製造
▲ 太洋プラスチック(株)	埼玉県蓮田市	プラスチックフィルムの製造

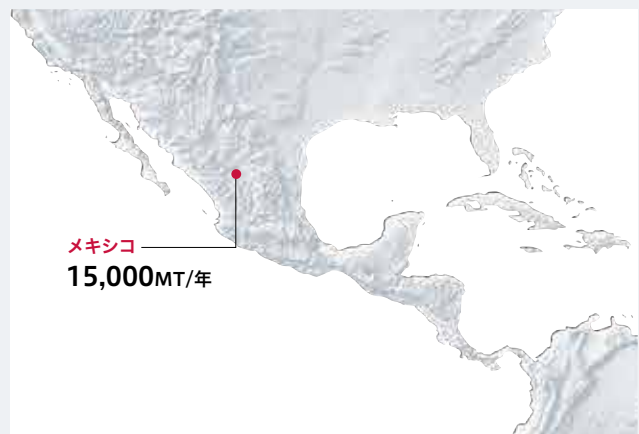
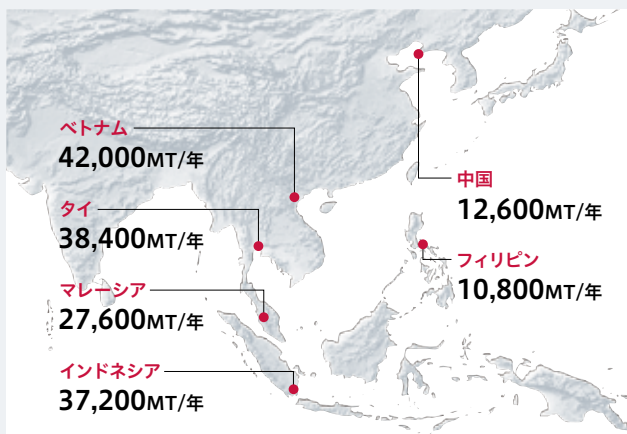
主要な持分法適用会社

▲ アルバック成膜(株)	埼玉県秩父市	電子工業・光学工業用材料部品の製造
▲ エヌアイボックス(株)	茨城県稲敷市	パッケージの印刷・成型
● (株)クリーン・アシスト	東京都新宿区	合成樹脂製品および雑貨品の販売
● 丸石化学品(株)	大阪市西区	化学品等の販売

その他主要な関係会社

▲ アイケイファーム積丹(株)	北海道積丹郡	農産物の生産、販売
▲ アイケイファーム余市(株)	北海道余市郡	農産物の生産、販売
▲ イナバオプテック(株)	神奈川県川崎市	光半導体封止樹脂に関する研究、開発

樹脂コンパウンドの年間生産能力 ※2020年7月1日現在



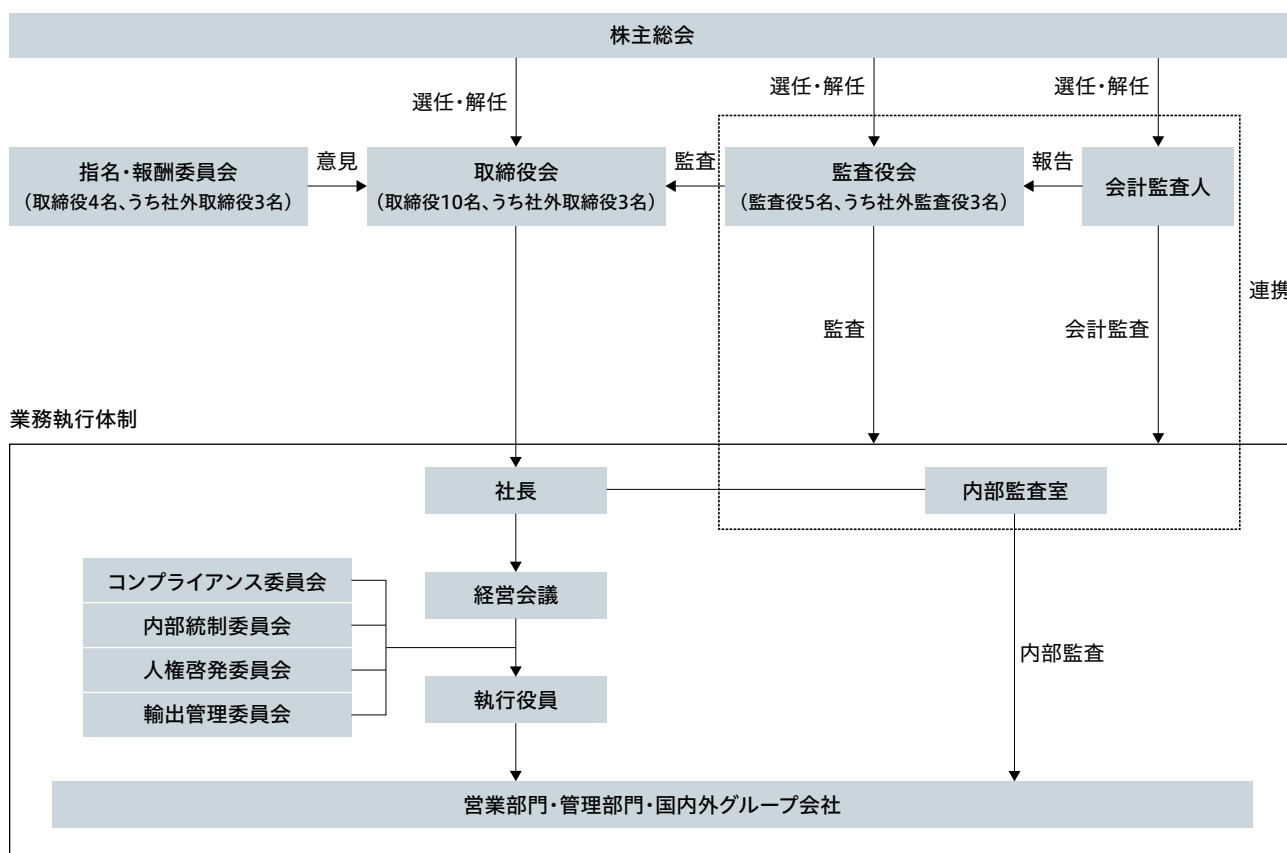
7カ国で計7工場を展開 合計年間生産量:183,600MT/年

コーポレート・ガバナンス

当社の経営理念は、『「愛」「敬」の精神に基づき、人を尊重し、社会の発展に貢献する』です。この経営理念は、株主、取引先、社員に加え、企業活動を支えるすべてのステークホルダーを対象としており、その達成のため、

当社はコーポレート・ガバナンスの重要性・必要性を認識しており、体制の整備、強化を図るべくさまざまな施策を講じています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



■指名・報酬委員会

2015年より、任意の指名・報酬委員会を設置しています。経営幹部の選解任、取締役・監査役・執行役員候補の指名、取締役の報酬などを決議するに当たっては、独立社外取締役が過半数を占める指名・報酬委員会の審議を経ています。取締役会は指名・報酬委員会の審議結果を十分尊重することにより、客観性、公正性、透明性を確保するよう努めています。

■経営会議・審査会議

業務執行機関としては、経営会議を設置し、会社の経営に関する基本方針並びに経営上の重要事項について審議し、その方向性を決定しています。加えて、重要な業務執行や投融資案件に関する審査機関として、審査会議を設けています。審査会議では、関係者は国内外から参加し、経営者と直接議論をします。

社会

■日仏交流



創業者・稲畑勝太郎が19世紀後半にフランスに留学し、合成染料などの当時の先端技術を学んで以来、当社は日仏文化交流に尽力してきました。1927年当時仏大使ポール・クロードと勝太郎らの尽力により、関西日仏学館（現・アンスティチュフランセ関西-京都）が設立され、現在もフランス語講座や両国の文化交流イベントが開催されています。また、1952年に2代目社長稲畑太郎らが発起人となり大阪日仏協会を設立、現在も両国の友好親善の促進を図っています。



2003年に改装されたアンスティチュフランセ関西-京都

■日葡交流



ポルトガルとの関係は、1920年に創業者が京都駐在ポルトガル副領事に任命されたことに始まります。1932年には稲畑太郎（2代目社長）が大阪ポルトガル名誉副領事に就任しました。現相談役の稲畑勝雄は1973年以降に同名誉領事を務めました。また、1993年日葡両国における友好450周年を契機に両国の交流史に思いを致し、1994年に大阪日本ポルトガル協会を設立し会長職を務めました。現在は現社長の稲畑勝太郎（6代目社長）が会長職を引き継ぎ、両国の文化交流促進に取り組んでいます。



環境

■環境に関する基本的な考え方

当社は、事業活動を通じて社会・経済の発展に貢献するとともに、地球環境の保全に努めることを「稲畑産業コンプライアンス宣言」で表明しています。環境リスクは、経営環境に影響を及ぼす重要なファクターであり、当社グループの持続的な発展のためにも、事業を通じて取り組むべき課題です。当社は2000年に、環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

■事業活動に伴う環境負荷の低減

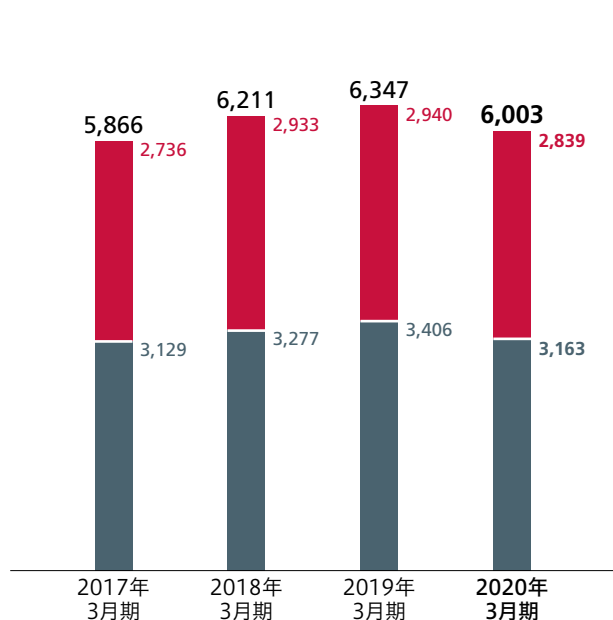
現在取り組んでいる中期経営計画NC2020では、社会の環境負荷を低減し、かつ当社の事業機会となる分野の取り組みとして、太陽電池関連部材やEV車向け原料など、環境・エネルギー分野を注力分野と位置付けています。また、事業活動に伴う資源の利用についても削減を進めるとともに、リサイクルに取り組んでいます。

ファイナンシャルハイライト

売上高

(億円)

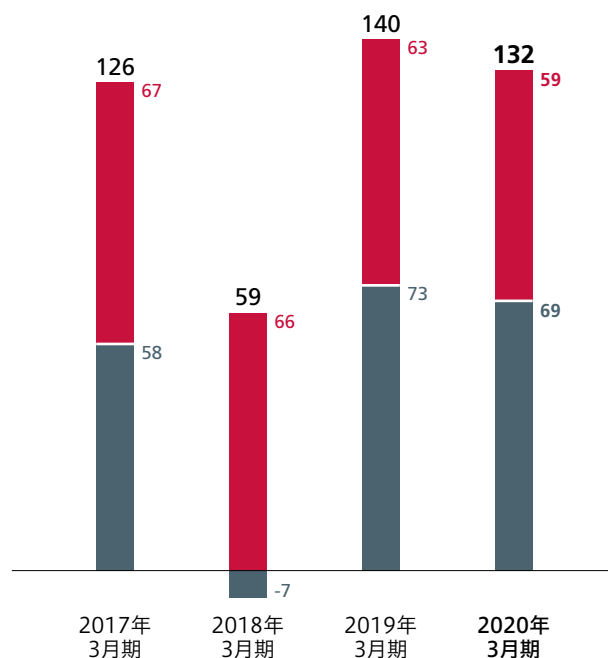
■国内 ■海外



営業利益

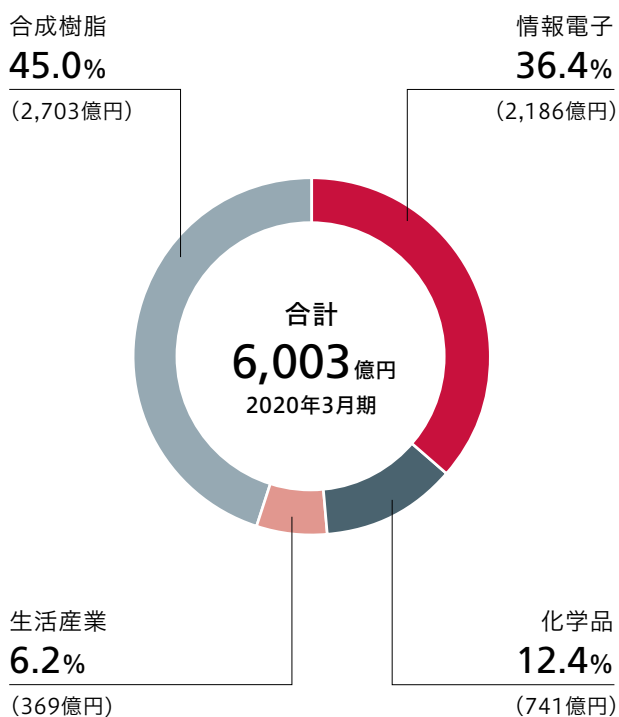
(億円)

■国内 ■海外

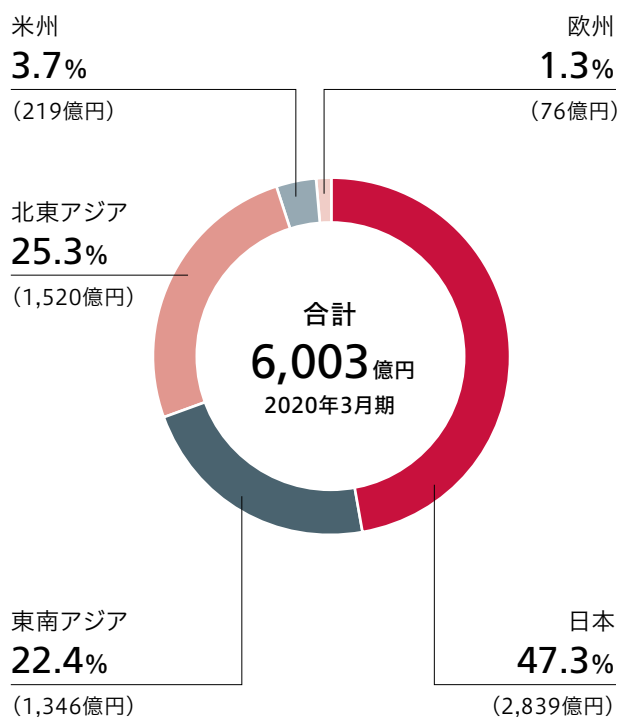


※連結営業利益と国内・海外の営業利益の合計との差は連結会計上の消去によるものです。

事業区分別 売上高・構成比



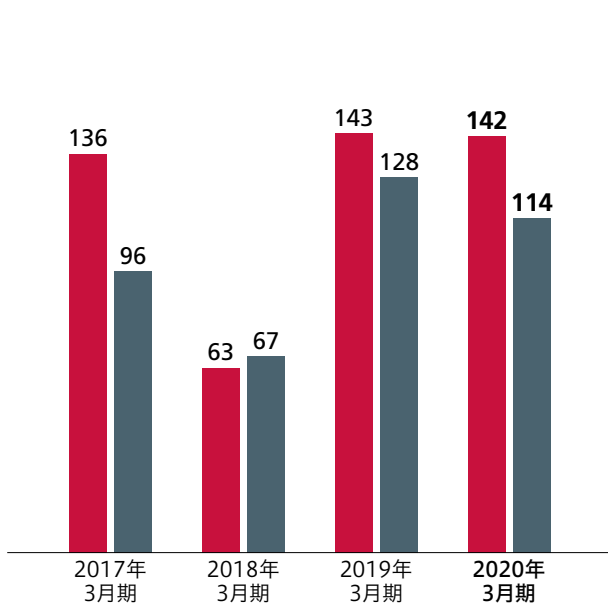
所在地別 売上高・構成比



■ 経常利益と当期純利益※

(億円)

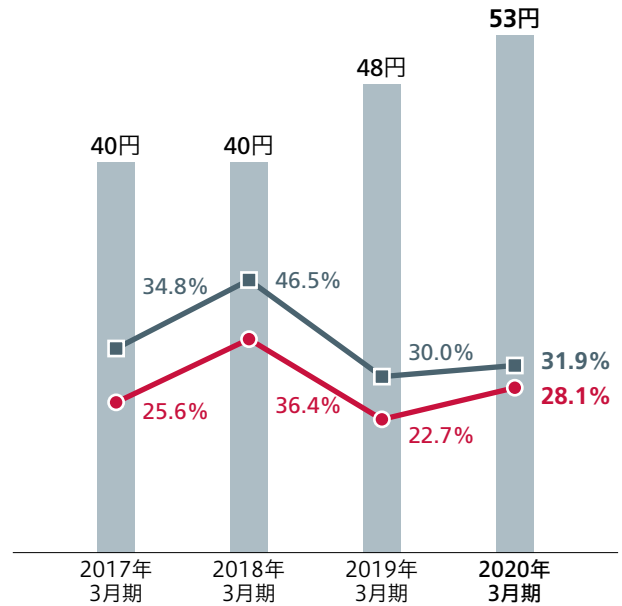
■ 経常利益 ■ 当期純利益



※親会社株主に帰属する当期純利益

■ 1株当たり配当金と株主還元指標

■ 1株当たり配当金 ● 配当性向 ■ 総還元性向

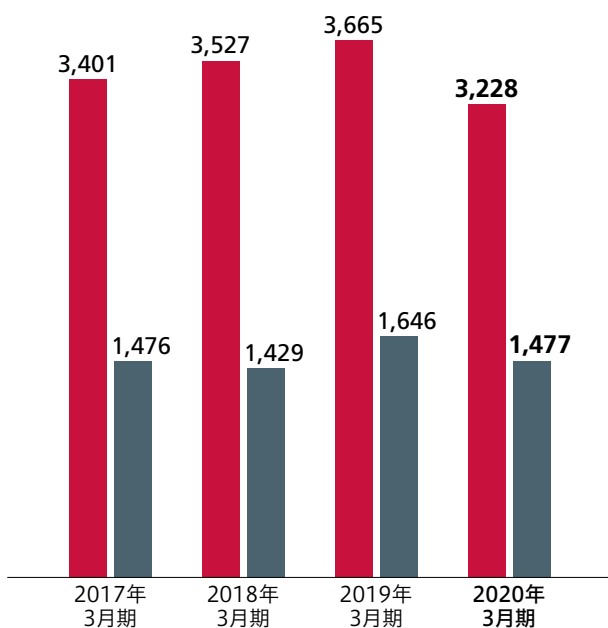


※総還元性向 = (配当金額 + 自己株式取得額) ÷ 連結純利益 × 100

■ 総資産と純資産

(億円)

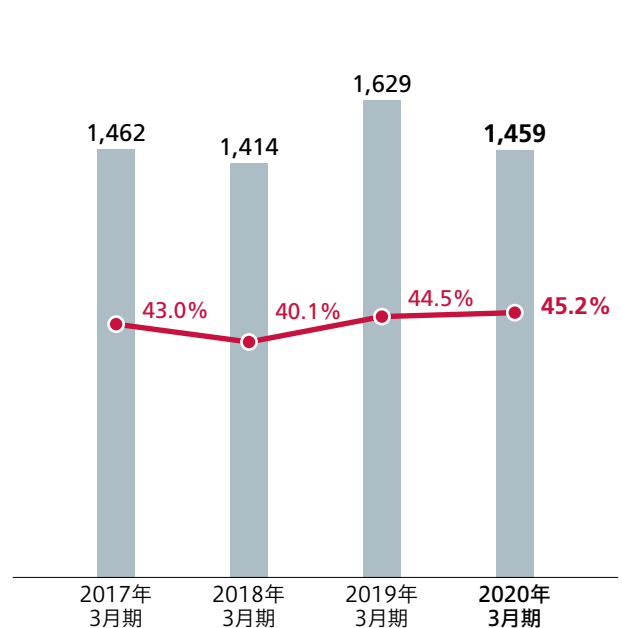
■ 総資産 ■ 純資産



■ 自己資本と自己資本比率

(億円)

■ 自己資本 ● 自己資本比率



役員一覧 (2020年7月1日現在)



代表取締役社長執行役員
稲畑 勝太郎



代表取締役専務執行役員
赤尾 豊弘



代表取締役専務執行役員
横田 健一



取締役常務執行役員
佐藤 友彦



取締役常務執行役員
杉山 勝浩



取締役常務執行役員
安江 範臣



取締役
出口 敏久



取締役
蟹澤 俊行



取締役
佐藤 潔



取締役
濱島 健爾

代表取締役
社長執行役員 稲畑 勝太郎

代表取締役
専務執行役員 赤尾 豊弘 情報電子・生活産業セグメント担当、
欧米地区担当

代表取締役
専務執行役員 横田 健一 総務広報・情報システム・財務経理・IR・
業務推進・リスク管理担当、海外管理担当

取締役
常務執行役員 佐藤 友彦 化学品セグメント担当、人事担当

取締役
常務執行役員 杉山 勝浩 情報電子セグメント担当補佐、
北東アジア地区担当

取締役
常務執行役員 安江 範臣 合成樹脂セグメント担当、
東南アジア地区担当

取締役 出口 敏久 (住友化学株式会社 特別顧問)

取締役 蟹澤 俊行 (東京ガス株式会社 社友)

取締役 佐藤 潔 (芝浦機械株式会社 社外取締役)

取締役 濱島 健爾 (ウシオ電機株式会社 特別顧問)

常勤監査役 望月 卓

常勤監査役 久保井 伸和

監査役 高橋 慶孝

監査役 柳原 克哉

監査役 玉井 哲史

執行役員 小田 吉哉 (丸石化学株式会社 代表取締役社長)

執行役員 幡本 裕之 リスク管理室長

執行役員 花木 和宏 北東アジア総支配人

執行役員 河合 紳也 東南アジア総支配人

執行役員 高橋 豊 化学品本部長

執行役員 中野 幸治 合成樹脂第一本部長

※取締役 蟹澤俊行、佐藤潔および濱島健爾は、社外取締役であります。

※監査役 高橋慶孝、柳原克哉および玉井哲史は、社外監査役であります。

※取締役の括弧内表記は、当社以外の主な兼務職であります。

※執行役員の括弧内表記は、出向先での役職であります。

企業情報

会社名 稲畑産業株式会社
(英文: Inabata & Co., Ltd.)

創業年月日 1890年(明治23年)10月1日

設立年月日 1918年(大正 7年)6月10日

資本金※ 93億6千4百万円

国内拠点※ 大阪本社、東京本社、名古屋支店、
塩尻営業所、浜松営業所、
九州営業所(霧島市)

海外拠点※ シンガポール、バンコク、ジャカルタ、
上海、香港、台北、ロサンゼルス、
ニューヨーク、デュッセルドルフなど
17カ国約60拠点

従業員数※ 単体: 648名
(グループ会社への出向者を含む)

連結: 4,282名

会計監査人 有限責任 あずさ監査法人

証券コード 東証第一部 8098

※2020年3月31日現在

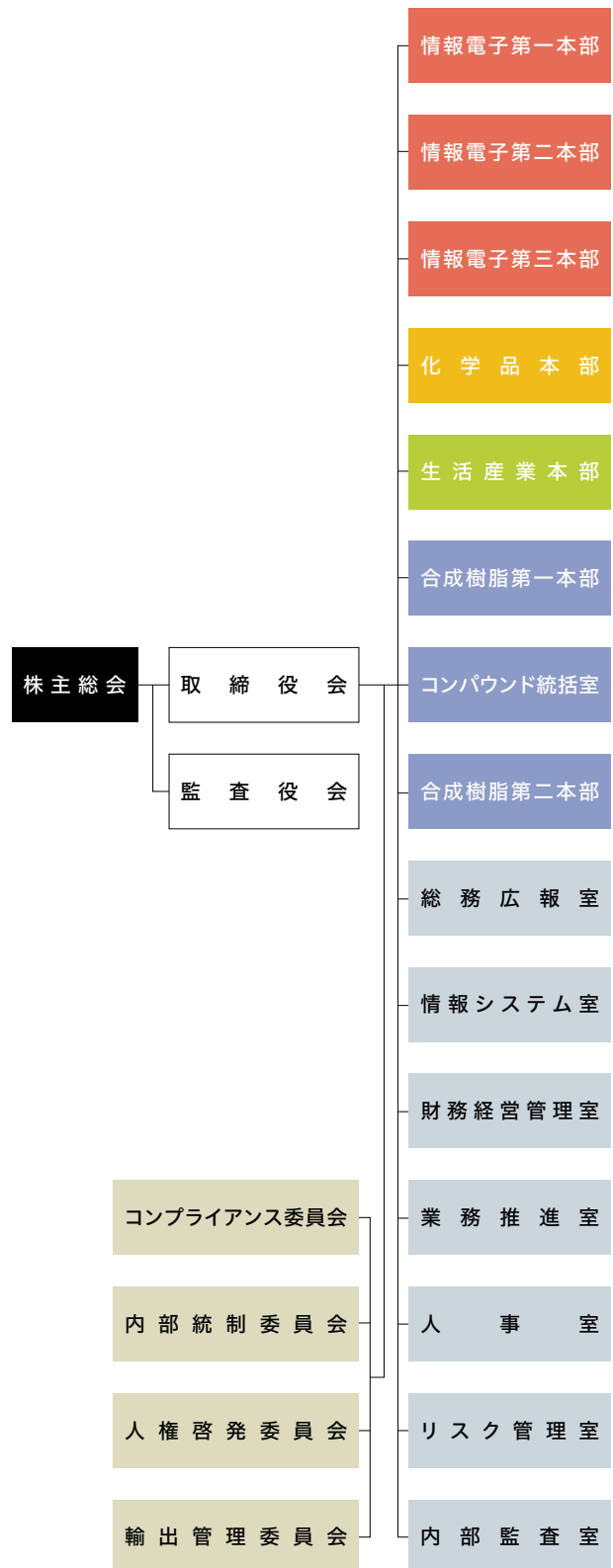
ウェブサイト

<https://www.inabata.co.jp/>



組織図

(2020年7月1日現在)



IK 稲畑産業株式会社



2020年8月発行